

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200155		
法人名	社会福祉法人 楽寿会		
事業所名	グループホーム足久保らくじゅの家		
所在地	静岡県静岡市葵区足久保口組原田516-1		
自己評価作成日	平成29年2月10日	評価結果市町村受理日	平成29年 4月 26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた場所で地域の方との交流を大切に重ねながら馴染みの方と触れ合い、心安らぐ安心な生活を送っております。又、防災についての取り組みを重視し、備えを万全に期すことで安全確保に努めております。職員研修も充実しており介護知識・技術に研鑽を積み、特に「言葉遣い」「虐待防止」についての指導は徹底しており、ご利用者の人権を尊重する適切な対応を身に付けております。楽寿の園高齢者総合福祉エリア内の他施設、事業所と連携し、多職種より様々な支援を受け、その人らしさを大切にした適切な対応が提供出来る協力体制が整っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2294200155-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は高齢者の尊厳を尊重し、温かい言葉できめ細かな気遣いが介護に実践され利用者は穏やかに過ごしている。2ヶ月に一度職員の居室訪問があり1対1ならではの「食事・入浴・外出の希望や対利用者への思い」などを聞き個別ノートに記録し全職員で共有してケアに繋げている。日々観察し、出来ることと出来ないことを見極め、一人ひとりの生活歴から出来ることの存続を支援している。日常は表情少ない利用者が定期的にかかってくる電話でしっかりした声で対応される事に感動し、馴染みの人や地域住民との関わりの大切さを改めて確信し、関係づくりの継続支援に努めている。災害に対する意識は高く、毎月防災避難訓練を行い避難経路や避難方法を緊急時に対応できるように努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成29年2月27日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念「高齢者への尊厳」に「地域の方との交流を大切にする」を加え、事業所の理念としている。理念をフロア内に掲示し、内容を理解し、意識化を図りながら日々の支援に取り組んでいる。	月1回管理者と職員が交代で法人の職員会議に出席し理事長から「言葉使いについて」等きめ細かな理念に繋がる話を聞き、職員に浸透・共有がされている。個別に日々観察し健康面での安心感や役目を持って達成感をもち穏やかに過ごせるよう適切な対応をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入して情報収集を行い、地域行事(夏祭り・ふれあいの会等)に積極的に参加し、交流を図っている。ご利用者は地域の中でこれまで関わってきた方との関係を大切に継続している。	利用者は地域行事の夏祭り等に参加したり、公民館で行われる「ふれあいの会」に月1回参加し、住民と交流している。顔見知りになった住民と地元のスーパーで立ち話をしたり、筍や野菜のおすそ分けを届けてもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症についての勉強会を行ったり、ご利用者との活動を設定し理解を深めている。ふれあいの会にご利用者と一緒に参加することで、地域の方々に向けて認知症の方の理解に繋げている。又、グループホームに相談窓口がある事を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回開催し、ご利用者や事業所の現状を理解して頂けるよう努めている。自己評価・外部評価については、毎回報告している。会議でのご意見はサービス向上に繋げている。	行政職員や地域包括支援センター職員・地域の役員・家族代表は毎回参加し定期的に開催している。利用者全員が参加しての防災訓練や音楽療法・お楽しみ会等を設定しながら意見交換をしている。議事録は明確に作成され、誰でも閲覧できるように玄関の所定の場所に置いてある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き、会議報告書を送付している。運営上の疑問については、その都度相談しご指導を頂き、より良いケアサービスに繋げている。	制度の変更や契約時の不明な点・勤務体制のこと等電話で質問相談し、聞いたことは記録し適切な運営に繋げている。地域包括支援センターは同法人内にあり、日頃より協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修により身体拘束となる具体的行為、その弊害について理解している。ご利用者の現状を常に把握し、ご家族に相談しながら出来る限りの工夫を検討し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	言葉使いや排泄時などの不適切な対応が身体拘束に繋がる可能性がある事を理解し、常に意識しながらその方に合わせた個別対応に努めている。運営推進会議時に家族や参加者からの意見を聞き、身の安全確保を優先した対応を心掛けている。	

静岡県(グループホーム足久保らくじゅの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人としての取り組みが徹底しており、虐待防止委員会・施設内研修等で学ぶ機会を多く持っている。理事長の著書である「虐待防止チェックリスト」「言葉遣いチェックリスト」を熟読し、常に意識することで防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内の研修を利用し、学ぶ機会を持っている。同エリア内には地域包括支援センターもあり、連携を図りながら、必要な方には活用できるよう支援をしたり、地域の方にも説明し活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の権利、義務を分かり易く説明し、質問に応じ充分に理解・納得して頂くよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望や苦情等を申し立て出来る事を説明しており、家族会を開催したり、日頃より意見し易い雰囲気を中心掛けている。外部窓口を設け、申し立てについて苦情解決担当者会議で検討し、運営に反映させている。	利用者から「みかんの皮を干してお風呂に入れる」や「箸の使い方」など昔の習慣からの教えを聞くことがあり、一緒に行い感謝の言葉を伝えている。年1回の家族会や面会時又運営推進会議で家族からの意見や要望を聞いている。楽寿便りの写真を見ながら会話も弾み、意見交流を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム内研修や朝の引継ぎ時、又は申し送りノートを利用し職員の意見・提案を聞き話し合い、運営に反映させている。	ホーム内研修等で職員からの意見や提案を聞き、運営に反映させる仕組みがある。その結果を引継ぎノートに記録し、共有することでサービスの質の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や研修への参加を促し、意欲を引き出せるよう努めている。勤続年数・資格取得により昇給の仕組みがある。ストレスケアの取り組み等、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人では、新入職員・中途採用者に向けた研修を実施し内部・外部研修等に積極的に参加する機会を設け、知識・技術の向上に努めている。又、資格取得プロジェクトがあり資格取得をするための支援をしている。		

静岡県(グループホーム足久保らくじゅの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修時に同業者との交流を持ち、そのネットワークを活かし情報交換している。同法人内の他グループホームとも情報交換し、共に学びサービスの質の向上に役立てている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族と相談や見学に来られた際等、ご本人のご意向や不安な事等を聴き取り、受容する事で安心して頂けるよう努めている。利用する前でも相談に応じられる事も説明している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や直接相談に来られた際、お困りな事や不安な事、ご要望等を伺い、思いを受け止めるよう努めている。利用する前でも相談に応じ、空床時は体験入居や短期利用が出来る事も説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に応じながら生活面・健康面・経済面等を把握し、他の選択肢も含めた対応に努めている。必要としている支援を見極め、他施設の相談員と連携した対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事の準備を楽しんだり季節に応じて、らっきょう漬け・梅干し漬け・味噌作り・白菜漬け等、普段からご利用者に教えて頂く機会が多くある。その方の特性を見極めながら、ご家族と共に支え合う関係を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等を利用して近況を報告し、必要時には支援についてのご相談をさせて頂いている。ご利用者の生活を豊かにする為のご協力を頂き、ご家族と共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の面会時に自室で共に過ごす時間を大切にして頂きながら、お茶出し・写真撮影を行う等の工夫をしている。手紙書きの援助や遠方のご家族への電話連絡により、教え子や趣味の会の方等、馴染みの関係を継続している。	入居前から参加していた「趣味の会」の仲間や、元教師だった方の教え子、近所の民生委員等の面会が継続しており、馴染みの関係を大切にしている。以前住んでいた県外の知人からも定期的に電話連絡があり、喜びに繋がっている。	

静岡県(グループホーム足久保らくじゅの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者一人ひとりの生活暦や性格を把握し、気の合った方との交流を楽しめるような雰囲気作りをしたり、全員の方との関わりが持てる活動をする等、共同生活の中で支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	築いてきた関係を大切に、いつでもご相談に応じる事が出来る事を説明している。法人内のそれぞれの施設の相談員と連携しながら支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	馴染みの人や物・場所・暮らしの継続や生活環境等について定期的に居室を訪問して確認している。そこからご利用者の思いやご意向の把握に努め、職員間で検討し記録する事で統一した対応が出来るように情報を共有している。	健康面や環境面など何でも家族に状況を伝え、相談している。家族から聞いた情報や2ヶ月に1度の居室訪問で意向や要望を把握している。1対1で過ごす居室ではフロアでは言いにくいご利用者同士のことや食事・外出・入浴の希望などが聞けノートにきめ細かく記録しケアに繋げるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族より今までの情報をより多く収集する事でその方の人生を知り、共に生きていく姿勢を大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントに基づいてご利用者主体の目標を立て、職員間で日々の変化や気づきを共有し、その人らしさを大切にしたい暮らしが出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族・職員・医師・看護師等から情報収集し、統一した見解で介護計画を作成している。3ヶ月毎に評価見直しを行い、ご家族と話し合い確認後、現状に即した計画に変更している。	3ヶ月に一度評価し家族に説明して意見を聞いている。居室訪問時で聞いている意向・要望をもとに健康・外出・活動・家族との交流等、利用者の思いを把握して、計画書を作成している。日々の介護記録に現状を記入し、全職員で共有している。計画はケース検討会で話し合いケアマネジャーが作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に添ったカルテ記録をしている。誰が見ても情報を理解出来るような記入方法とし、職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		

静岡県(グループホーム足久保らくじゅの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別化に努め、必要な支援を見極めながら取り組んでいる。楽寿の園高齢者総合福祉エリア内での他職種との連携で、その状況に応じた適切な対応が提供出来る協力体制が整っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域公民館でのふれ合いの会に参加して物作りをしたり、地域の方々の慰問(フラメンコやシャンソンの集い、舞踊)に参加する事で、ご利用者が豊かに楽しく過ごせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関を確保しながら常にご本人やご家族に相談し、ご要望通りの対応を心掛けた適切な医療が受けられるように支援している。又、かかりつけ医と連携しながら、ご本人・ご家族等同意の上、情報提供している。	法人の診療所と連携し、医師や看護師からアドバイスを受け健康管理を支援している。希望するかかりつけ医への受診は家族が対応している。その際は、ホームでの日常の様子や残薬などの情報提供をし、適切な医療を受けて健康状態を確保している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	楽寿の園高齢者総合福祉エリア内にある診療所の看護師と連携し、日常の健康管理・相談等、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中はお見舞いに伺い、ご利用者が安心して治療出来るように言葉掛けし、経過を把握している。病院関係者との情報共有や相談に努めながら、退院後も適切なケアが提供出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、事業所の方針や対応をご本人・ご家族に説明しご理解・同意を得ている。法人内各施設と連携し医師や看護師等との協力体制を整え、可能な支援に取り組んでいる。	重度化に関する指針は入居時に説明し、家族と話し合い、継続的に意向を確認している。状態の変化に応じて、法人内各施設の医師や看護師等と連携し、家族と話し合い終末に向けてホームでの生活継続支援の体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し全職員が熟知すると共に施設内職員研修にて、心肺蘇生法・AED使用法・誤嚥防止等の訓練を行い、実践力を身に付けている。		

静岡県(グループホーム足久保らくじゅの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル作成、災害対策備品や非常食品の備蓄等災害に備えている。又、毎月防災訓練を実施しており、地域住民やご利用者家族にも訓練に参加して頂く等、協力態勢を築きながら防災への意識を高めている。	毎月の防災避難訓練や併設のデイサービスと年2回の合同防災避難訓練を行い、日頃から避難経路等安全な避難を体で覚え込み緊急時に備えている。運営推進会議で地域役員にも参加して頂き、連携を図りながら訓練を実施している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者への尊厳を理念とし、ご利用者の権利を常に意識し、適切な対応に努めている。特に言葉遣い、虐待防止については虐待防止委員会・職員会議・施設内職員研修時等で理事長の指導の下、研鑽を積んでいる。	一人ひとりの好みや得意な事を把握し、その方の人格を尊重し生活歴を大切に存続できるような支援が職員の言葉かけから見られた。特に優しさと思いやりを込めた言葉遣いは高齢者の誇りある尊厳を保ち穏やかな生活に繋がっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の尊重は理念であり、職員は研修等で個別援助技術を学びながら適切な対応が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の日々の状況を把握し、暮らしのペースはご利用者の生活スタイルに合わせている。食後の片付けや居室で過ごされるご利用者をさりげなく見守り、食事時間や場所もご利用者のペースに合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔な整容を心掛け、季節やその場に応じた身だしなみのアドバイスをしている。化粧をする習慣のある方には継続出来るよう支援したり、理美容ではご家族の協力を得ながらご利用者の希望に添える支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行うことで好みを把握し、ご利用者が職員と共に食事の準備・調理・片付け等を行うことで食事を楽しんで頂けるよう支援している。昔からの効率的な調理法を職員に伝授して下さる機会も多々ある。献立の説明、彩りにも配慮しご利用者の希望・好みを反映させている。	下ごしらえから調理、配膳、片付けまでを職員と一緒にやっている。食前に献立、食材の説明があり、食から回話などに繋がったり、さり気ない対応で楽しみながら食事が出来る支援をしている。梅干し作り・ラッキョウ作り・干し柿作り・ジャム作り・味噌作り等を行い、食卓に上げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の水分量を毎日チェックして把握する事で適切な対応に努めている。法人内管理栄養士と連携し給食会議に参加する等、体調により食形態を変更しながら栄養バランスについてのアドバイスを受け支援している。		

静岡県(グループホーム足久保らくじゅの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせ、起床時、就寝前、食後の口腔ケア・イソジン消毒等の言葉掛けや援助を行い、清潔保持に努めながら健康管理にも繋げている。毎日、緑茶うがいを励行している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンをチェックし把握した上で言葉掛けや誘導の援助をする等、各人のペースに合わせた排泄が出来るよう自立に向けた支援に努めている。	その方に合った支援を職員で話し合い、ドアの開閉に注意する等、プライドを尊重した対応を心掛けている。トイレの回数の多い方の対応では、自立支援及び下肢筋力低下防止に繋がったケースもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を確認し、記録を行い把握している。水分補給や繊維の多い食品の摂取や腹部マッサージを毎日の朝の体操の中に組み入れている。個々に応じ蜂蜜湯やオリーブオイル等の提供を行ったりと工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日実施し、必ず体調を確認し、ご本人のご意向を伺っている。(血圧測定・水分補給実施)その方のペースに合わせた入浴や湯温の配慮、季節に応じ柚子湯やミカンの皮を干し使用する等楽しんでいる。	その方のご意向に合わせて湯加減を調節し、気持ち良い入浴が楽しめている。又、体調や病歴を十分に把握しながら安全な入浴支援に努めている。天日干しのミカンの皮を湯船に入れたり、入浴を楽しめる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活パターンやその時の状況に応じて、休息出来るよう努めている。日中は活動し、夜は安眠出来るよう取り組んでいる。又、夜間の不眠時、好みの飲み物を提供したり傾聴する等の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病歴や内服薬の目的・用法・副作用・用量について理解しており、誤薬予防する為、事前の投薬チェックを必ず2名で確認し、その症状の変化を観察し確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの性格や趣味を把握し、生活の中でそれぞれに発揮して頂き、感謝の言葉を伝えることで生活への張り合いに繋げている。慰問参加・散歩・畑仕事・野外レクリエーション等で気分転換の支援をしている。		

静岡県(グループホーム足久保らくじゅの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所園庭での散歩やマーケット・100円ショップでのご要望に添った買い物、月一度の野外レクリエーション、外食等の支援をしている。又、ご家族との団らん・受診・旅行・お墓参り等の外出の機会も多く支援している。	月に1度は花見やぶどう狩り等、季節に合わせての外出や野外レクリエーションに出掛けたり、施設園庭での散歩や日向ぼっこ等、年に1回は回転寿司など外食にも出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時の買い物や外食した際の代金をご利用者個人の財布から直接支払いが出来るよう支援をしている。小遣い帳を作成し、残高計算をする援助を行い、ご家族の面会時に使用用途について説明し、確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に沿って電話をしたり、遠方のご家族からの電話を取次ぎ、それぞれの交流関係を大切に支援している。手紙の返信やご利用者に荷物が届いた時の礼状、年賀状書き等の支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	遮光・室温・湿度・音量等の調整に配慮し、室内には季節感のある作品や法人内ケアハウスの方の絵画を飾り、ご利用者や来訪者にも居心地の良い空間を提供している。	両側に居室が並び、どの部屋からも縦長のホール中心に出入りが出来て、家庭的な雰囲気がある。テレビコーナーのソファでくつろいだり、中央の台所に近い食卓スペースで食事の準備を眺めながら会話も弾んでいる。ホールに開閉式の天窓があり心地良い明るさの調節がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士ソファで楽しく歓談したり、縫い物をされたり、時にはお互いの居室を訪問したりと和やかに共同生活を過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や好みの絵画を掛けられたり、ご本人の作品を飾ったり工夫している。作品が増えるにつれ楽しんで眺めたり、ご家族の写真を手にされたりと自室を大切にされている。居室清掃等、室内の安全点検を実施している。	畳の和室と洋間があり、馴染みの家具や昔からの趣味の道具、作品や家族写真が飾られて家族の訪問時には思い出話が弾み楽しめる。大きな押入れや天袋があり1年分の衣類等の収納が可能で生活の安心感がある。畳の雑巾がけなど掃除の出来ることを職員と一緒にやっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力をよく見極め、出来る事をお願いし自立支援を行いながら共に生活している。理解しやすいように張り紙や説明書等を工夫し、安全に配慮しながら自立した生活が送れるように支援している。		